

島田村

『村

歌』

村歌

安来の町に名も高き 十神の山をあとにして 我が和田村を出で立てば あはれを残す姫崎に

猪麻呂の少女を祭りたる 小さき叢祠ほこらを右に見て 鳥打峠たわや森が鼻 過ぐれば黒鳥細井村

細井の入江たたずに佇みて 中の海原見渡せば 大天橋たたえと称へたる 夜見浜辺の松原や

白砂に映ずる其のさまは 絵物語のような えもびしらむ眺めなり うしろの森の木蔭より 見ゆるは妙理権現ぞ

祭れる神は大山の 神※1のいろねの菊理媛 ここを貫くトンネルは 西線一といはれたり

大谷坂を越えくれば 筍蜜柑の産地とて 其名聞こゆる島田村 見渡す限りをちここに

みどりしたたる たかむら 翠 滴る 篁や 黄金色なす蜜柑畑 大石が岡のゆるぎなく そこは島田小学校

ふもと 麓※2に立てる村役場 村政ここに行へり はるか彼方を見上げれば 雪をいただく大山は

富士の山にもまが※2ふべく 雲間そびに高く聳えたり 間近に見ゆる山々は 清水山の一つづき

うしろの山に見えたるは 稻荷神社の鳥居なり 錦海沖を見渡せば 一目に見る

黒き烟けむりを靡なびけつつ 米子なぎに向ふ船もあり 前なる島田半島に 汀なぎにそへる村々は

※1いろね
(同母の姉)

※2まがふ
(よく似ている)

八神大添後山 羽根に須崎の五村にて 天王神社は須崎なる 森の中にぞ祭らるる

この半島の眞先は 昔韓より渡りて※1 大鐘のあがりたる 八尋鼻やいろばなとて名も高く

その鐘は雲樹寺に 寶物として残るなり 沖に間近き萱島や 松島さして渡りなば

眺はあかずつきもせず 磯の漁りも面白し 大歳神社を右にみて 切割通れば門生村

此處は名だたる清水の 寺に詣もつづる別れ道 門生神社の前通り ゆきかふ人の絶えまなし

陽徳山の山下に 見ゆる伽藍※3は常福寺 海につき出し八坂の 鼻をめぐれば唐崎や

じんでの磯に打沿いて 國の境の御崎まで 一目に見る吉佐村に はやくも我は着きにけり

天津神社を拝すれば 社頭にかさす御笠松 千代もはからぬ色見えて 村の幸をぞ祝ふなる

かく我村をめぐり見ば 山の姿はうるはしく 海の面はのどかにて なかに住へる村人は

心一つに親しみて 其生業そのなりわいにいそしめり げにも楽しき島田村 いやいよ栄えん島田村

島田村小学校基本財産基金積立規程

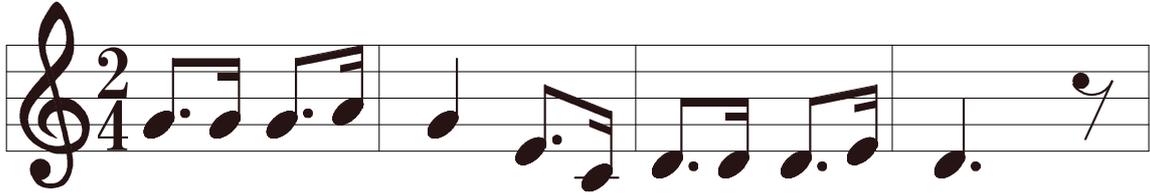
明治四十四年七月中 学校長各自治会に出張協議決定

※1 渡りてふ (渡ったという)

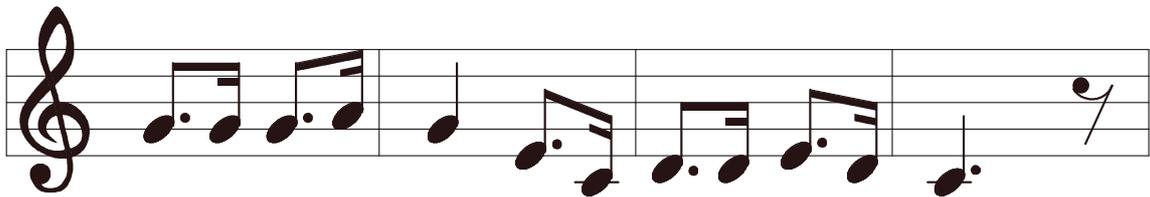
※2 渡りなば (流れにまかせて渡ること) 流れわたる

※3 伽藍 (寺院の建築物)

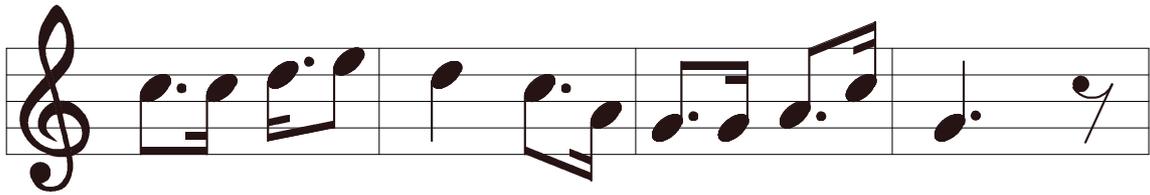
島田村歌



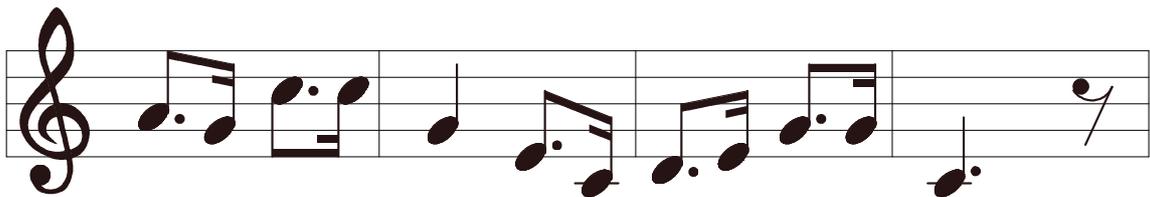
や—す ぎ—の ま— ち—に な—も た—か き—



と—か み—の や— ま—を あ—と に—し て—



わ—が わ—だ む— ら—を い—で た—て ば—



あ—わ れ—を の— こ—す ひ—め さ—き に—

出典 歌詞：平成22年（2010年）安来市立島田小学校所蔵品より転写
音源：昭和43年（1968年）倉敷広独唱の録音テープより採譜（倉敷順子）
地図：五万分の一地形図を拡大したもの
編集：倉敷和夫（文責）
印刷：岩崎浩志 平成24年（2012年）